

# 神奈川県鳥瞰図に描かれた小田原・箱根地域 — 酒匂川流域にある謎の「名物」 —

にいだしゅういち  
新井田 秀一(学芸員)



図1. 神奈川県鳥瞰図(神奈川県立歴史博物館所蔵, 富士フィルムビジネスイノベーション株式会社画像提供).

## はじめに

神奈川県立生命の星・地球博物館 令和4(2022)年度 特別展「みどころ 沢山! かながわの大地」にて展示した吉田初三郎作「神奈川県鳥瞰図」から、小田原・箱根地域について紹介します。

このような鳥瞰図は、観光名所を読み解くことが面白いのですが、今回はそれだけではなく、描かれている地形についても一緒に見ていきましょう。

## 「神奈川県鳥瞰図」とは

この絵図(図1)は、鳥瞰図絵師の吉田初三郎が昭和7(1932)年に描いたもので、原画が神奈川県立歴史博物館に収蔵されています。歴史博物館の特別展「地図最前線」において展示されました。

神奈川県観光連合会の委嘱によって外国人観光客誘致のための宣伝材料として作られたものです(武田, 2019)。関東大震災から復興を遂げた神奈川県の姿として、県内の主要な名所旧跡が描かれた観光案内図となっています。このような吉田初三郎の描く鳥瞰図は、地域の姿を伝えるメディアとして関心が高まっています(昭文社編, 2021)。

## 描かれた小田原・箱根地域

絵図から小田原・箱根地域を拡大したものを図2に示します。描かれている地物について、凡例はオリジナルになかったため、読み取った結果から判断しました。これを図3に示します。鉄道・道路・バス路線・航路といった交通機関

は線の色で区別し、乗り物のイラストを併記しています。なお、「省線」とは、現在のJR線のことで、当時は鉄道省が運営していたことによります。名所旧跡や駅名・地名などの名称は、短冊型プレート<sup>しょうせん</sup>の形によって種類分けし、地色でレベル分けしています。

地形を見ていきましょう。図の右側に大磯丘陵から足柄平野、左側には大きく箱根火山が描かれています。

足柄平野は、中央を流れる酒匂川<sup>さかわがわ</sup>を中心に、支流として関本の方から流れる狩川<sup>かりがわ</sup>と松田付近で合流する川音川<sup>かみかみ</sup>、洒水<sup>しやすい</sup>の滝から流れる滝沢川が描かれています。

鉄道と地形の関係を御殿場線で紹介します。国府津駅～下曾我駅～松田駅



図2. 小田原・箱根地域の拡大(神奈川県鳥瞰図).



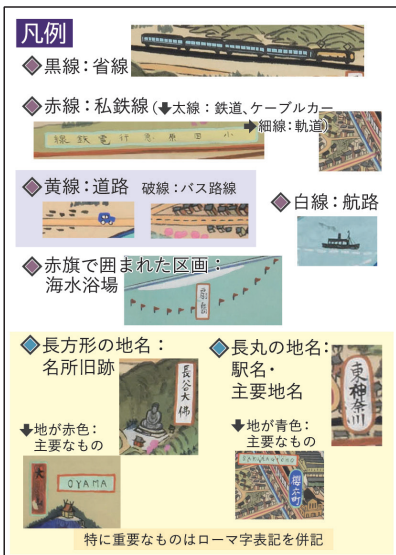


図3. 神奈川県鳥瞰図の凡例.

の区間は、大磯丘陵の緑の平らな所にあります。ここはちょうど、国府津—松田断層帯の縁になっていて、切り立ったような直線的な地形が特徴的です。小田原急行鉄道(現:小田急小田原線)は、大磯丘陵と丹沢山地の間にある川音川に沿った狭い所から松田駅(小田急線としては新松田駅)付近で足柄平野に出て酒匂川を渡り、小田原駅方面に進んでいます。大雄山鉄道(現:伊豆箱根鉄道大雄山線)の関本駅(現:大雄山駅)の右側には小高い丘状の地形がありますが、これは関本丘陵と呼ばれています。

箱根周辺を見てみましょう。箱根の最大の特徴であるカルデラ地形が、表現されています。外側を囲む明神ヶ岳・明星ヶ岳・金時山などの外輪山の中に、堰き止め湖である芦ノ湖が背後に、神山・駒ヶ岳などの中央火口丘が前側に描かれています。芦ノ湖から流れ出す早川は、中央火口丘を迂回して、仙石原から強羅・小涌谷・宮ノ下・堂ヶ島の下を



図4. 神奈川県鳥瞰図から谷峨周辺拡大.

通り、湯本で須雲川と合流します。早川が削った深い渓谷は、出山鉄橋などの橋梁でも表現されていますが、特に堂ヶ島や小涌谷周辺では、河原にある巨石も描かれています。それに比べ、須雲川の表現は控えめになっています。

もうひとつ、箱根の特徴である温泉は、その源泉周辺に白い湯煙を描くことで示しています。地名の表示された温泉地だけでなく、大涌谷や早雲山などにも湯煙がありますが、山体崩壊の地形も描かれています。

塔之沢・湯本周辺では、早川に架かる旭橋・千歳橋や函嶺洞門など関東大震災以降の土木建築や、塔ノ沢水力発電所など地形を生かした電力資源開発も描かれています。

小田原駅周辺では、丘陵地形の上に築かれた小田原城の縄張り・堀がよく分かります。また、丘陵の縁に小田原駅があり、東海道線がトンネルや築堤によって熱海方向に延伸されていることも分かります。ただし、丹那トンネルの開通は昭和9(1934)年なので、多少未来のことを描いていることになります。その割には、箱根登山線や大雄山鉄道については正確に描いています。昭和10(1935)年まで箱根登山線は、小田原—箱根板橋付近までは国道1号線上にありました(併用軌道区間)。大雄山鉄道は小田原駅まで乗り入れていませんでしたので、絵図でも途中で切れた表現になっています。

小田原駅近くには、楕円型の地物が名称なしで描かれています。これは競馬場ではないかと考えています。小田原競馬場は、関東大震災からの復興を目的として大正14(1925)年10月に開場し、情勢の変化により昭和5(1930)年に廃止されました。作画されたころにはまだ痕跡があったのかもしれませんが。

なぞの名物地名

小田原・箱根地域を調べていて、現在につながる地名が2つあります。一つ目は、「清水の峡嵐(読み方不明)」です(図4)。この時代には開業前のため描かれていないの



図5. 神奈川県鳥瞰図から足柄平野上端部.

ですが現在の谷峨駅近くになります。御殿場・駿河(現:駿河小山)方面からの鮎沢川が、丹沢山地からの河内川と合流する手前の山肌に記されています。鮎沢川には「清水橋」があり、合流から下流方向には「嵐」集落がありますが、それ以上の情報がありません。

二つ目は、「大口遊園地」です(図5)。JR御殿場線 山北駅から関本駅(現:伊豆箱根鉄道大雄山線・大雄山駅)へ延びる道は県道74号「小田原山北線」と考えられ、酒匂川に架かる橋は「大口橋」となります。問題の地物は、「範茂史跡公園」のある関本丘陵までの間の平野部に描かれています。近くに描かれている桃色の丸印は桜か桃の花と考えられ、花木が名物であった可能性があります。これらについて、些細なことでも構いませんので何かご存じでしたらお知らせください。

おわりに

本稿は2023年1月25日に当館友の会主催の地話懇話会での発表を元にしました。この絵図に関する研究は、神奈川県立歴史博物館の武田周一郎学芸員と共同で進めて、JSPS 科研費19K01149, 19K13451 の助成を受けて実施しています。まだまだわからないことの多い絵図ですので、引き続き調査研究していきたいと思っています。

参考文献

昭文社編, 岡田直解説 2021.『吉田初三郎 鳥瞰図集』昭文社.  
 武田周一郎 2019.「神奈川県鳥瞰図」の作成過程と利用の実態. 神奈川県立博物館研究報告(人文科学) (46), 41-60.